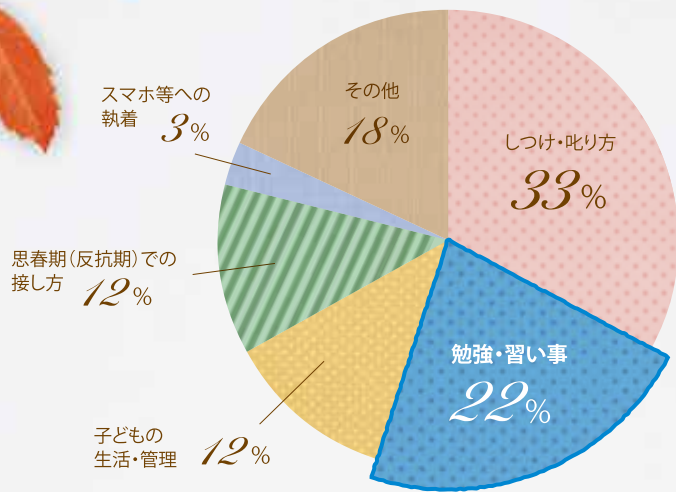




子育て に関するお悩み



2番目に多かったのは、子育てに関するお悩み。「何度叱っても同じミスを繰り返すので困っている」、「アメとムチが難しい」というしつけや叱り方に関するお悩みや、「習いごとはいつかすべきか」、「なかなか勉強してくれない」などの学びに関するお悩みが目立ちました。そこで、今回は子どもへの勉強の促し方について徳田先生に聞いてみました。



勉強を促すとき 気をつけたいこと。

教育熱心なお父さん、お母さんの中には「このドリルをやりなさい」「これを覚えなさい」という指示によって、子どもが勉強するよう促している人も少なくありません。親の指示通りに動ける子どもは、「一見」記憶力のよい「素直な子」ですが、自分で考えて動くこととする意欲に欠ける傾向にあります。

小学校4年生以降、勉強には記憶力だけでなく、思考力や応用力が求められるようになります。そのような力は失敗体験によってつちかわれます。自分に足りないものを考え、どんな勉強をすればいいかを考えさせることが、本当の頭の良さをつくることを心に留めておきましょう。



徳田克己 先生

筑波大学医学医療系教授、教育学博士、臨床心理士。専門は子ども支援学、子育て支援学、気になる子どもの保育。アジア子ども支援学会会長、イオン1パーセントクラブ理事。「筑波大学発ベンチャー子ども支援研究所」の所長として、幼稚園や保育園の先生たちのコンサルタントとしても活躍。年間100件以上の講演を各地でおこない、育児に悩む方からの相談に応じている。著書に『親を惑わす専門家の言葉』、『お母さんがうなずいた数だけ子どもは伸びる』、『育児の教科書「クレヨンしんちゃん」』など。